

平成25年度（3月）
紀の国森づくり基金運営委員会
議 事 録

開催日時 平成26年3月25日（火）
9：30～10：40
開催場所 和歌山県自治会館
3階 304会議室

平成25年度（3月）
紀の国森づくり基金運営委員会

- 1 開催日時 平成26年3月25日（火）9：30～10：40
- 2 開催場所 和歌山県自治会館 3階 304会議室
- 3 出席委員
大浦 由美 委員
岡本 賢司 委員
嶋田 敬子 委員
寒川 歳子 委員
谷関 俊男 委員
中西 重裕 委員
原見 健也 委員
計7名
- 4 県関係出席者
森林・林業局 局長 橋本 秀明
林業振興課 課長 西山 久雄
森林整備課 課長 豎 一宏
副課長 泉 清久
緑化推進班長 中瀬古金一
主任 太田 和樹
主査 犬飼 宣興

平成25年度（3月）紀の国森づくり基金運営委員会

日時：平成26年3月25日（火）9：30～10：40

場所：和歌山県自治会館 3階 304会議室

開 会 9時30分

■■委員長

それでは、議長を努めさせていただきます■■です。
よろしくお願いいたします。

まず、紀の国森づくり基金運営委員会設置要綱第7条第1項に基づき、本日の議事録署名委員を、私の方から指名させていただきます。

■■委員と■■委員にお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、本日の委員会は応募のあった事業についての審議であり、平成19年度第1回の委員会で検討し決定したとおり、自由な議論を行うため審議は非公開にしたいと思っております。そのため、報道関係者の方、傍聴者の方がいらっしゃるかどうか確認いたします。事務局いかがでしょうか。

太田主任

報道関係の方、傍聴者の方はいません。

■■委員長

それでは、議事の1番目、「平成26年度紀の国森づくり基金活用事業に係る公募事業の審議について」を議題といたします。

それでは、委員の皆さんに事前審査をいただきました評点の結果などについて、当局から説明願います。

豎森林整備課長

今回の公募ですが、平成25年12月20日から平成26年2月6日まで実施いたしました。申請件数は19件、申請額は約1,580万円の応募がありました。

分野ごとで見ますと、「森とあそぶ・まなぶ」は、17件で約1,200万円、

「森をつくる・まもる」は、3件で約280万円、「森をいかす」は、3件で約50万円、「提起」は1件で約50万円となっています。

本日の委員会については、この公募の事業選定について、お願いしたいと思います。審査の平均点が23点以上の事業について、紀の国森づくり基金活用事業として、「適当」としてまいります。

この選定要領や事前審査結果の詳細につきましては、中瀬古緑化推進班長から説明をします。よろしくお願いいたします。

中瀬古緑化推進班長

それでは、選定要領の概略と事前審査の評点結果についてご説明します。

まず、選定要領の概略ですが、応募のあった事業は、県において条例趣旨及び要綱等の確認を行い、全ての応募された事業に整合性があると判断しましたので、委員の皆様にも事前審査をお願いしました。

その結果を基に、この委員会では、各事業の適否についてご審議いただくこととなります。

なお、適否の判断基準ですが、「適当」は各委員の評点の平均点が23点以上のものとなっています。

ただし、23点以上であっても、「0点」の項目が採点者数以上ある場合、又は過半数の採点者が「0点」とした項目があるものは「適当でない」となります。

そのほか、再評点を行うことがふさわしいと判断された事業につきましては、この場で再評点を行っていただき、その採点結果で決定することとしています。

この委員会の適否をもとに、県では事業の採択を行うこととしていますので、よろしく申し上げます。

それでは、事前審査の結果についてご説明します。

資料をご覧ください。

この表は、評点結果を基に、評点の高い順に並べております。

最初から18件までは、「適当」と判断する際の基準点以上、最後の■■番は、基準点未満となっています。

次ページ以降は、事前評価における各委員の項目別点数並びに各委員からいただいた意見を掲載しています。なお、今回は、項目別に見て0点が付いた項目はありませんでした。

また、各事業に対する代表的なご意見につきましては、採択者への通知の際に留意事項や意見として記載しますので、委員会終了後改めて各委員に対しまして内容の確認をお願いしたいと考えています。

■■委員長

ありがとうございました

評点の結果について何か質問はありませんか。

各委員

(質問なし)

■■委員長

なければ審議に移りたいと思います。

事前審査においては「適当」と判断する際の基準点を上回っている申請が18件、下回っているものが1件となっています。これについて委員の皆様の意見をいただきたいと思います。

23点を下回っている1件については、平均すると20点ですが、23点以上の点を付けられた委員もいますので、もし何か意見がございましたら、お願いできますか。

■■委員

23点以下が1件ありましたが、各委員のみなさんは悩みながら採点をされたのではないのでしょうか。

これについては、かなり低い平均点となっていますが、各委員のそれぞれの評価があると思いますので、それぞれの評価をお伺いすれば、今後指導をする上でも参考になると思います。

■■委員長

私もそのように思いますので、各委員から意見をいただいてよろしいですか。

■■委員

私は、ぎりぎり了という点を付けました。

ただ、森づくりに必要となる協定書などについては、努力してもなえないかなと思いました。

また、耕作放棄地に関して、役場等と協力して地域全体で進めていくというようなことを進めていただければできるのかなと思います、プラスの方に付けさせていただきました。

- 委員
私も、基準点近くの点を付けました。
少し気になっているのは、パンフレットを見ても、森づくりというよりビオトープそのものの資料と感じられる部分があります。
私としては、委員全員の平均点という意味で、今回の採点でいいのではないかと思います。
- 委員
私は、子供達たちのためになることであれば、何とかやってほしいなと感じましたので、合格点を付けさせていただきました。
- 委員
私も、適切な指導者に話を聞いて、その場の環境にふさわしいものを植栽していくことなど十分ご検討いただけるのであれば良いことかなと思い、合格点を付けましたが、最終、総合点の評価なので、この結果は重視するべきだと思います。
- 委員
この前の聞き取り調査で感じたことですが、説明が的確にできるかどうかで我々の印象が変わってきますので、今回の結果はそういう面もあるように感じます。
また、構成員全員で取り組まれている事業かどうか分からなかったことと、植栽樹種について疑問がありました。
やろうとすることについてはいいことだとは思いますが、厳密に審査すると少し引っかかる部分があるように感じます。
- 委員長
私の意見ですが、全ての公募事業に対してできるだけ多く実施してほしいという立場から、採点しているつもりです。
そういう意味から、長年実践していることについては本当に素晴らしいことで評価しているのですが、申請書やこの前の聞き取り調査の結果から、少し厳しい評点を付けざるを得ないと判断しました。
この内容を見直すには少し時間がかかるような感じがありますので、今後もう少し森づくり活動にふさわしいような内容にプランが是正できるのであれば、またチャレンジしていただければいいのではないかと考えています。
- 委員
私は、団体の代表の方については、非常に熱意のある方だと感じています。
しかし、植栽樹種などについて、専門の方の意見を聞くなどして、子供達に正しい自然観や生き物に関する知識を教えていただきたいとの思いから、厳しい点を付けました。
ただし、この基金の目的からいって、多くの人に気軽に参画できるような制度であってほしいと思いますので、いろいろなアドバイスをできるような仕組みがあればと思っていますところ です。
- 委員長
ありがとうございました。
ただ今のみなさんのご意見に関して、なにかございますか。
基準点を上回っている18件、および下回っている1件に関して、再評価すべきなどの意見はございませんか。
- 各委員
(意見なし)
- 委員長
もし、ご意見がなければ、事前審査に基づき18件を適当とい

うことにしてよろしいですか。

各委員

(同意)

■■委員長

ありがとうございます。

それでは、この18件について「適当」ということで、本委員会からの審議結果として、県に報告することといたします。

ただし、「適当」とした事業であっても、実施にあたっては、委員からの意見を参考に県のほうから指導をお願いしたいと思います。

それでは、今回の紀の国森づくり基金活用事業の公募に関しまして、総括的なご意見等がございましたらご発言願います。

■■委員

この申請資料を見ると、特に数字的なもの、何人集めてこんな事業をしますなど計画的に実施されている事業が多いのですが、過剰な計画になっていないかというところを評価する場合に、昨年はどうだったのか、実績はどうだったのかというようなところが分かるものが必要ではないかと感じています。

■■委員

それに関連して、事業の実績報告、例えば何人出て、実際にきちんと植林しました、そういう結果的なものがでているのでしょうか。

豎森林整備課長

計画に対しての実績数値は申請者から出てきております。今年から、前回委員からご指摘がありましたので、聞き取りの時の資料として、過去の参加人数の計画と実績を比較した資料を付けさせていただきますところでは。

■■委員

確かにこの資料を見ると、人数は申請時と実績値で比較できるのですが、事業費についても比較できるようにお願いします。

■■委員

委員会として、全部は見れませんが、毎年継続している事業などで、今年度の事業をされているところを見に行くということをしてほしいと思っています。委員各自でできればいいのですが、なかなかできないので、是非お願いしたいと思います。

また、それぞれの団体の実績の報告会、例えば、各団体5分づつ、プロジェクターを使って、会場できちんと報告をすとか、公募する時に説明会を開くとか、是非行ってほしいと思います。

私達が、机上の審査だけでなく、本当に事業を選択していくうえで、やっていく方がよいと思います。

豎森林整備課長

現地視察の件ですが、過去にも実施したことがあります。また、各委員の日程調整が困難でできなかったこともあったと聞いています。これについては、現地の状況であるとか、相手方の状況を聞きながら、相談させていただきたいと考えています。

報告会や公募の説明会については、報告会の位置づけをしていませんので、なかなか難しいかもしれませんが、相手方の団体の意向を確かめた上で、検討させていただきたいと考えています。

■■委員

私が感じていることですが、是非大勢の県民のみなさんが、気

軽に参画してほしいというのが大原則としてあります。

最初、この補助事業を立ち上げるにあたっては、1年間にわたって検討委員会で検討を尽くしました。その中でも、様々な意見があるなかで、みんなが使いやすい制度にしようということで、今の姿になったと記憶しています。

そういう中で、委員のみなさんが感じられていることのひとつに、生業との境界をどこに置くのかということがあります。

森林体験を収益が得られるような産業にという思いもある中で、ヨーロッパほどにはグリーンツーリズムのようにお金を払って田舎へ遊びに行くことが定着していない。ただ、お金が必要な部分をボランティア的に地域の方々が関われば、安くすむだけでなく、県民の参画意識も高まるという部分もあると思います。

細かく規定するとそれが参画を妨げることになりかねませんので、きわめて線引きは難しいのですが、ボランティア的な意識を高めていくためにも進めていくことが基本であると私は感じています。

当局の皆様も含めて、その辺の意識の啓発、指導は、継続的にやっていくべきであろうと思っています。

■■委員

今回は19件の応募でしたが、応募件数は減ってきているのですか。

■森林整備課長

平成24年度までは、市町村も実施団体として参加できましたので、50件から多い時で2次募集を併せて70件ぐらいでした。このうち、市町村以外のNPO等からの参加の平均というのはだいたい年間30件でした。

市町村が対象外となった平成25年度は2次募集含め20件で、本年度も同様にその程度となっています。

なお、市町村は公募の対象外としましたが、公募以外の市町村民の森づくりなどの事業で、昨年は約10件ぐらいありますので、合計30件程度となっています。

今までの平均から見れば少ないですが、公募以外にも若干あるとご理解いただきたいと思います。

■■委員

私は、この事業をもっと活性化してほしいと思うのです。この前に問題もありましたが、それに負けずにやってほしい、堅くいき過ぎるとすばらしい森づくりに繋がっていかないような気がします。

ここは難しいところなのですが、過去のいろいろなことを踏まえて、応募の仕方などをもう一回練り直して、新たなところへ進んでいってほしいと思います。

もっと様々なアイデアで、和歌山県の森林に携わっている人みんなにチャンスを与えるようなことをしないと、全体的に森は良くならないと思います。

■■委員長

ほかによろしいでしょうか。

それでは、私の方から今回の応募事業について、少しまとめをしたいと思います。

今回、継続事業が多くを占めており、なかでも、長年、本当に地域と密接に活動され、地域作り活動としても評価できるような

計画的な森づくり活動に発展している団体もありました。このような団体が出てきたということは、本当にこの基金のいいところだと思っています。それから、そのほかに子供達の森林教育という面でも、非常に息の長い活動がいくつか散見できるということで、それも非常によいことだと思っています。

その一方で、少しルーティン化している団体もあるのではないかと少し感じた次第です。

やはり森づくりは、森が荒れているところを整備して、何らかの木を植えることが基本ではありますが、将来立派な森になる森づくりがきちんとできてるかどうか、また、生物多様性などの重要性も認識されてきていますので、このあたりもきちんと考えなければならないポイントとなっています。このようなことから、もう少し幅広い森づくり、またその知識を、みんなで共有できたらいいのかなと思われる事例もありました。

そのような点から、私も先ほど提案がありました報告会のようなものは非常に重要かと思っています。

県では、振興局をはじめ、各団体に様々なご指導をしていただいているとは思いますが、県と1団体という対話になっています。そうではなくて、団体のお互いの様々な経験を団体さん自身が共有できる、あの団体はこういうことをしているのか、あるいは、こういう教育活動に関してこんなプログラムの工夫をしているのかというような気づきに繋がると思います。こういうことから、私達が実績を知るという意味だけではなく、各団体さんがお互いに経験を共有することで生まれるアイデアもあるのではないかと考えています。

是非、しかるべき段階で、シンポジウムみたいな形式でもよいので、幾つかの団体が年に一度ぐらい集まって広く意見を共有できるような、あるいは、森づくり基金でこんなことができれば、というようなことをいっしょに話ができるような場が作れたらいいのかなと思っています。

それから、このようなシンポジウムの際に、先進的な取り組みをしているところは全国にあると思いますので、そういう方を呼んで、勉強会や研修会のようなものを行ってみるとということもひとつのアイデアではないでしょうか。このようなことで、より中長期的に良い森にするという目的のある計画的な森づくりになったら良いのではと考えます。

最後に、今年も痛感した訳ですけれども、もう少し申請団体がどのようなことをしているのか知る必要があると思っています。全員がというのは非常に難しいかもしれませんが、2班に分かれて時期を変えるなどして視察に行くとか、私達も積極的に現場を知ろうとする行動を試みたらよいのではないかと感じました。

■■委員

少しよろしいですか。

報告会を実施した時に、順位等を決めてなんらかの表彰をした方がやる気ができるのではないのでしょうか。

それから、委員みんなで集まって事業を見に行くとしても、なかなか合わないと思うので、各委員に事業をいつ実施するのかという一覧表を配ってもらえたら、自分の行ける時に見に行けると思います。

■■委員

森林関係の団体の実態として、森林関係の補助金でやっていたものが、活動していくうちに農の実績として発表されるということがあります。それはそれでありがたいことですが、森林関係の団体としては、林として発表していくことをしていけないといけないと思っているので、その報告会というようなものを、小さなものから立ち上げるということについてはいいことだと思います。

時期的に、林というのは植える時期や切る時期などばらばらであり、一方、子供達が動ける時期などは特化されてしまうため、同じ時に何かをするというのは非常に難しいかなというイメージはありますが、せめて一歩でも踏み出して報告会ということになれば、関係者が集まって意見が聞けるのでいいことだと思います。

また、子供達に対してどのようなことをしたのかという実態が分からない申請書もありますので、そのあたりは書いてほしいと思います。

■■委員長

ありがとうございます。

取りあえず1番目の議題としてはここで締めさせていただきたいと思います。

それでは、続きましての議事はその他となっております。事務局から何かございませうか。

太田主任

その他ということで、一点、ご審議をお願いしたい案件があります。

今回、19団体から応募がありましたが、さらに団体の自主的な活動による森づくりや森と共生する文化の創造を広げていくためにも、もっと多くの団体に支援し活動していただきたいと考えています。

また、過去に実施したことのある団体に、今回の公募に応募するかどうか、事前に調査を行いました。48団体から回答があり、応募するもしくは予定していると回答した団体が20団体、検討中という団体が9団体ありました。

この応募予定と検討中の団体併せて29団体のうち、16団体から応募があった訳ですが、残りの13団体については、これからも紀の国森づくり基金を活用した活動への参加の可能性があると考えられます。

予算的にも余裕がありますので、2次募集の実施について、ご審議をお願いしたいと思います。

■■委員長

ありがとうございます。

今、当局からご説明がありましたことをふまえ、2次募集の実施について、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

制度の見直し等ありまして、公募の時期が後ろにずれたり、また前に戻したり、そういう混乱もありました。

2次募集で、もう少し数多くの団体さんが参加することができるのではないかと思います。

各委員

(賛成)

■■委員長

ご意見等ないようでしたら、2次募集実施という方向で進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

各委員 (はい)

■■委員 ■■番の方に、是非、詳細なお話しやご指導をしてあげてほしいと思います。

■■委員 ■■番の方は、2次募集でもう一回練り直して出しますということも可能ですか。

太田主任 可能です。

■■委員長 その他ですね、さきほどから今後のあり方、新しい取り組みについて、いろいろご意見を伺っておりますが、そのほかございませんでしょうか。

■■委員 2次募集の大まかな予定はどうか。

太田主任 現在審査した案件が、4月中ぐらいの採択となりますので、それが終わりましたから、公募を開始したいと思っています。また応募期間は6月ぐらいまで、その後、7月、8月ぐらいで審査、8月、9月ぐらいには採択したいと考えています。

■■委員長 早くしないと事業期間もありますので。だいたいこのようなスケジュールかなと思います。
そのほかございますでしょうか。
今日は、委員からいろいろな意見出ましたが、事務局はいかがですか。

橋本森林・林業局長 各委員の皆様から、事業の実地調査、報告会や勉強会の開催、また、この基金事業の裾野をどう広げていくのか、といったところまで様々な提案をいただきました。
提案いただいた内容については、すべて一度にという訳にはいかないかもしれませんが、できることから着実に進めていきたいと思っていますので、改めて委員のみなさまにご意見をお聞かせいただき参考にさせていただくことがあろうかと思っていますので、よろしく願います。
それから、今回採択には至らなかった1件ですが、2次募集に向けてというご意見をいただきました。
今回の委員会における指摘事項を伝えてまいります。そのことを、いかに自分たちで咀嚼して、知恵を絞って、新しい事業を作っていただくということも必要だと思いますので、そういう観点から、アドバイスをしていきたいと考えています。

■■委員長 ありがとうございました、
ほかにいかがでしょうか。
ないようですので、本日の委員会はこれで終了したいと思います。
委員の皆様には、ほんとに熱心なご議論、それからご審議、それからご意見をいただき、また会議の進行に御協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

どうもありがとうございました。

閉会 10:40